

安東忠さん、ご苦労様でした！

2014年12月末日で、鉄道人生を終えることを余儀なくされた安東さんは、11月11日、ご家族をはじめ、多くの仲間に出迎えられ、463Aをもって最後の乗務を終えられました。安東さんは、国鉄時代の過渡期、「国鉄悪者論」が意図を持って展開された時期、自らの雇用と仲間の雇用を守るために、スズキ自動車工場の派遣に応じ、厳しいライン作業を全う、更に住み慣れた故郷を後にして家族と共に大阪の地に広域異動として赴き、現在のJRの礎を築いてきました。

JR発足後、会社は会社主導の労働組合づくり(御用組合)を画策したため、私たちはJR東海労の結成を余儀なくされ、安東さんはJR東海労発足から今日まで、役員を担い、運動を牽引してこられました。そして会社は、安東さんに対して、恣意的に期末手当の減額を連続して行い、61歳をもって雇用を打ち切りました。

現在、JR東海はリニアの具体的工事着工を控え、徹底した効率化と、コスト削減が追求されています。

職場では、要員不足から年休未発給、失効問題を始め、問題が山積みしています。今後とも力を合わせて働きやすい職場環境、安心して働ける社会をめざして共に歩んでいきましょう。

これまで、安東さんを支えてこられた家族の皆さん、ご苦労様でした。

出迎えの皆さん、ありがとうございました。

